

こたえ ジャックと豆の木

ひょうじゅん 標準 ③

ジャックと豆の木

(イギリスの昔話)

ジャックは、まずいいお母さんくらしていました。ある日、ジャックは牛を売りに行き、牛とふしぎな豆を取りかえてしまいました。

お母さんはおこって、豆をまどの外へ投げすてました。次の朝、庭には、雲の上までとどく大きな豆の木のびていました。ジャックがのぼってみると、雲の上には大男の城しろがありました。

ジャックは、金のたまごをうむめんどりを持ち帰ろうとしました。気づいた大男がおいかけてきましたが、ジャックは急いで豆の木を下り、おのてくきを切りたおしました。

大男は、もう下りてこられなくなりました。ジャックとお母さんは、それからしあわせにくらしました。

1 ジャックは、牛を何と取りかえましたか。

ふしぎな

豆

2 雲の上には、だれのしろがありましたか。

大男

の城しろ

3 ジャックが持ち帰ろうとしたのは、何ですか。

ア 金のたまごをうむめんどり

イ 大男のくつ

ウ 豆のふくろ

4 大男が下りてこられなくなったのは、どうしてですか。

ジャックが、豆の木のくきを切りたおしたから。

おうちの方へ

- 豆の木が「雲の上までとどく」ほど大きいことを、想像しながら読みましょう。